



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年2月7日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東  
 コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp/corp/index.html>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 山村 輝治  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 大久保 裕行 TEL 06-6821-5071  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	120,968	△1.6	7,351	2.0	8,793	3.9	5,439	△3.9
2018年3月期第3四半期	122,970	△0.6	7,207	40.4	8,460	32.5	5,659	29.5

(注) 包括利益2019年3月期第3四半期 7,641百万円 (△15.7%) 2018年3月期第3四半期 9,060百万円 (92.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	101.77	101.76
2018年3月期第3四半期	105.89	105.89

(注) 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2018年3月期第3四半期については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	191,808	152,702	79.5
2018年3月期	196,058	147,786	75.2

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 152,456百万円 2018年3月期 147,415百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2019年3月期	—	30.00	—		
2019年3月期（予想）				20.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2019年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当20円00銭 記念配当10円00銭

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	163,000	1.2	7,900	4.5	9,000	0.2	5,400	1.4	101.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	55,194,823株	2018年3月期	55,194,823株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	1,750,140株	2018年3月期	1,750,262株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	53,444,965株	2018年3月期3Q	53,445,091株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2018年4月1日～2018年12月31日、以下「当第3四半期」という。）の我が国経済は、依然として回復基調が継続したものの、労働力不足や原油高等に加えて、激化する米中貿易摩擦等、海外経済の不確実性の高まりもあって先行きの不透明感が高まり、力強さを欠く状況が続きました。

そのような環境の中当社は、当期、「中期経営方針2018」の初年度をスタートしております。訪販グループ（2018年4月1日にクリーン・ケアグループから改称）では、「くらしのリズムを整えよう♪」のコミュニケーションワードの下、生活調律業への進化に取り組むと共に、高齢化の進展や共働き世帯の増加等に伴い市場拡大を見込むケアサービス事業（役務提供サービス）、ヘルスレント事業（介護用品や福祉用品のレンタル事業（2018年4月1日にレントオール事業から分離））の outlets にも注力しており、8月には、その一環として当社フランチャイズチェーン最大の加盟店である株式会社ナックと資本業務提携契約を締結しました。更にケアサービス事業については、サービス提供体制の更なる充実に向けて加盟店数増加への取り組みも強化しております。

一方フードグループでは、主力のミスタードーナツにおいては、ブランドスローガン「いいことあるぞ Mister Donut」実現によるブランド再構築に向けて、商品戦略を軸に新しいタイプの店舗出店、改装の促進に取り組んでおります。

当第3四半期の業績は、訪販グループ、フードグループ共に減収となり、連結売上高は前年同期から20億2百万円（1.6%）減少し1,209億68百万円となりました。一方利益面につきましては、減収に伴う粗利の減少があったものの、レンタル製品の投入減少等による売上原価の減少及び販売促進費、企業年金制度変更に伴う退職給付費用の減少等により、連結営業利益は前年同期に比べ1億44百万円（2.0%）増加し73億51百万円となりました。また、持分法適用関連会社となった株式会社ナックの利益を株式所有割合に応じて計上したことにより持分法による投資利益が改善した結果、連結経常利益は3億33百万円（3.9%）増加し87億93百万円となりました。しかしながら、フードグループの固定資産を一部減損処理したことや投資有価証券売却損の計上等により特別損益が悪化したことに加え税金費用も増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億20百万円（3.9%）減少し54億39百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2018年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2019年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
連結売上高	122,970	120,968	△2,002	△1.6
連結営業利益	7,207	7,351	144	2.0
連結経常利益	8,460	8,793	333	3.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,659	5,439	△220	△3.9

## &lt;セグメント毎の状況&gt;

## セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2018年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2019年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	86,124	85,617	△506	△0.6
フードグループ	28,313	26,535	△1,777	△6.3
その他	10,746	11,185	439	4.1
小計	125,183	123,338	△1,845	△1.5
セグメント間取引消去	△2,213	△2,370	△156	—
連結売上高	122,970	120,968	△2,002	△1.6

※各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

## セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2018年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2019年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	11,868	11,369	△499	△4.2
フードグループ	243	260	17	7.2
その他	192	338	146	75.9
小計	12,304	11,969	△335	△2.7
セグメント間取引消去 及び全社費用	△5,097	△4,617	479	—
連結営業利益	7,207	7,351	144	2.0

※各セグメントの営業利益には、セグメント間の取引を含んでおります。

## ①訪販グループ

訪販グループの売上高は、主力のダストコントロール商品売上高が前年同期を下回ったことにより、5億6百万円（0.6%）減少し856億17百万円となりました。営業利益につきましては、レンタル製品の投入減少等による売上原価の減少や退職給付費用の減少等があったものの、減収に伴う粗利の減少に加え、ニーズが高まる衛生管理分野への人員配置に伴う人件費増、コンタクトセンターの機能強化に伴う外注委託費の増加等による経費増加により、前年同期に比べ4億99百万円（4.2%）減少し113億69百万円となりました。

家庭向けダストコントロール商品につきましては、全国発売に伴うキャンペーンを前期4月に実施した「ロボットクリーナーSiRo」、台所用スポンジ等の売上が減少したことにより全体では減収となりました。しかしながら、事業横断の割引クーポンチラシの配布やモップレンタル無料体験等の創業55周年キャンペーン、サイバーモールへの出店等の接点作り強化により、「おそうじベアシック3」（フロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、「スタイルクリーナー」のセット商品）や家庭用玄関マット等の売上は増加しました。また当期より販売を開始したイオン式芳香器「ふわりら」の売上も寄与したこと等に加え、上半期に前期の反動減があった「ロボットクリーナーSiRo」の売上回復を目指して10月に新聞折り込みチラシ等による全国一斉の販売促進活動を実施した結果、第3四半期の減収幅は縮小しました。

事業所向けダストコントロール商品につきましては、汎用マットやモップ商品売上の減少等により、全体では減収となりました。一方で、施設の衛生管理や全国チェーンの大規模事業所の獲得等に注力し、屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」等の機能性が高く演出力のあるマットについては順調に推移しました。

ケアサービス事業につきましては、エアコンクリーニングが好調な「サービスマスター（ハウスクリーニング等プロのお掃除サービス）」をはじめ、「メリーメイド（家事代行サービス）」「ターミックス（害虫駆除・予防サービス）」「トータルグリーン（植栽の管理・維持サービス）」「ホームリペア（住まいのピンポイント補修サービス）」いずれの事業もお客様売上が増加し、全体の売上高は前年同期を上回りました。

訪販グループのその他の事業につきましては、ユニフォーム関連事業、化粧品関連事業、高齢者向け生活支援サービスのライフケア事業（2018年4月1日よりホームインステッド事業から改称）が減収となった一方で、ヘルスレント事業は引き続き好調を維持し、レントオール事業についても、上半期は地震や台風によるイベントキャンセルが続いたものの、第3四半期には売上も回復し、前年同期の売上高を上回りました。

## ②フードグループ

フードグループは、上半期に続いた自然災害により各事業で営業時間の短縮や休店を余儀なくされたこと、不採算店舗のクローズを進めたことによりミスタードーナツの稼働店舗数が減少したこと等でお客売上高が減少し、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料売上共に減少した結果、売上高は前年同期から17億77百万円（6.3%）減少し265億35百万円となりました。営業利益につきましては、原価率の改善等により、前年同期から17百万円（7.2%）増加し2億60百万円となりました。

フードグループの主力であるミスタードーナツは、前期に引き続き最高水準の素材と技術を持った企業等との共同開発商品を展開する「misdo meets」及び「ミスドゴハン」をキーワードにした軽食事メニューの販売に注力しております。「misdo meets」では、第1四半期の京都宇治茶専門店祇園辻利、第2四半期の焼きたてチーズタルト専門店PABLOに続いて、第3四半期は函館の老舗レストラン五島軒と共同開発した「老舗洋食プレミアムパイ」を販売しました。朝食やランチ、ランチタイム等おやつ時間帯以外でも楽しんでいただけるブランドへの進化を目指す「ミスドゴハン」では、5月の飲茶、パスタ等のメニュー改定に続いて、第3四半期には飲茶、パスタのメニューや「老舗洋食プレミアムパイ」とドーナツをセットにした「ミスドランチセット」を販売しました。また、幅広い年齢層に人気の株式会社ポケモンが販売するゲームソフト『ポケットモンスター Let's Go! ピカチュウ・Let's Go! イーブイ』とコラボレーションした「ミスドでポケモンに会おう!」キャンペーンを実施し、お子様から大人まで楽しんでいただける様々な商品・グッズを販売したことで、稼働店1店当たりの売上は前年同期を上回りました。しかしながら、不採算店舗のクローズに伴う稼働店舗数の減少影響が大きく、全店お客様売上は前年同期を下回る結果となりました。

その他のフード事業につきましては、とんかつレストラン「かつアンドかつ」は増収となりましたが、シフォンケーキ専門店「ザ・シフォン&スプーン」、大型ベーカリーショップ「ベーカリーファクトリー」、パイ専門店「パイフェイス」は減収となりました。また、前期末にカフェデュモンド事業から撤退した影響もあり、その他のフード事業全体の売上高は前年同期を下回りました。

## ③その他

その他につきましては、国内連結子会社は、リース及び保険代理業を手掛けるダスキン共益株式会社、病院施設のマネジメントサービスの株式会社ダスキンヘルスケアは共に増収となりました。また海外連結子会社も、中国（上海）でミスタードーナツを展開する美仕唐納滋（上海）食品有限公司が店舗数減少により減収となったものの、樂清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）がペーパータオルの取扱量増加等により増収となったことに加えて、事業所向けダストコントロール商品が順調に推移した樂清（上海）清潔用具租賃有限公司も増収となったこと等により、全体では増収となりました。その結果、その他の売上高は前年同期から4億39百万円（4.1%）増加し111億85百万円となりました。営業利益につきましては、ダスキン共益株式会社、株式会社ダスキンヘルスケア共に増益となったことに加え、海外事業における営業損失が減少した結果、前年同期から1億46百万円（75.9%）増加し3億38百万円となりました。

海外お客様売上は、訪販事業につきましては、展開している台湾、中国（上海）、韓国全てにおいて前年同期を上回りました。ドーナツ事業につきましては、タイ、フィリピン、インドネシアは順調に推移し、マレーシアを中心に展開しているBig Appleグループは前期並み、台湾、中国（上海）は減少しました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,918億8百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という。）と比較して42億49百万円減少しております。その要因は、有価証券が54億53百万円、繰延税金資産が17億43百万円それぞれ減少したこと等であります。

負債残高は391億5百万円となり、前期末と比較して91億66百万円減少しております。その要因は、退職給付に係る負債が55億56百万円、未払金が15億73百万円それぞれ減少したこと等であります。

純資産残高は1,527億2百万円となり、前期末と比較して49億16百万円増加しております。その要因は、退職給付に係る調整累計額が34億71百万円、利益剰余金が27億67百万円それぞれ増加したこと等であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）通期の業績予想につきましては2018年5月15日に公表した従来の予想を変更しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,846	19,718
受取手形及び売掛金	9,950	12,062
リース債権及びリース投資資産	1,326	1,254
有価証券	24,461	19,008
商品及び製品	7,738	7,236
仕掛品	142	173
原材料及び貯蔵品	1,598	1,473
その他	3,585	3,869
貸倒引当金	△37	△40
流動資産合計	67,611	64,756
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	43,486	43,581
減価償却累計額	△26,490	△27,089
建物及び構築物（純額）	16,996	16,492
機械装置及び運搬具	24,975	25,401
減価償却累計額	△18,484	△18,630
機械装置及び運搬具（純額）	6,491	6,771
土地	22,750	22,607
建設仮勘定	178	375
その他	12,405	12,302
減価償却累計額	△9,478	△9,678
その他（純額）	2,927	2,624
有形固定資産合計	49,344	48,871
無形固定資産		
のれん	549	458
その他	7,925	9,134
無形固定資産合計	8,474	9,593
投資その他の資産		
投資有価証券	60,523	60,343
長期貸付金	3	2
繰延税金資産	3,073	1,330
差入保証金	5,751	5,622
その他	1,310	1,311
貸倒引当金	△34	△24
投資その他の資産合計	70,627	68,587
固定資産合計	128,446	127,052
資産合計	196,058	191,808

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,834	6,552
短期借入金	173	—
未払法人税等	1,403	688
賞与引当金	3,397	1,991
資産除去債務	18	27
未払金	8,112	6,539
レンタル品預り保証金	9,314	9,864
その他	4,731	4,703
流動負債合計	33,985	30,366
固定負債		
退職給付に係る負債	12,882	7,325
資産除去債務	578	586
長期預り保証金	788	784
長期未払金	18	27
その他	18	15
固定負債合計	14,286	8,739
負債合計	48,271	39,105
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,087	11,092
利益剰余金	120,519	123,286
自己株式	△3,571	△3,571
株主資本合計	139,388	142,160
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,878	8,720
繰延ヘッジ損益	1	2
為替換算調整勘定	△54	△100
退職給付に係る調整累計額	△1,798	1,673
その他の包括利益累計額合計	8,026	10,295
新株予約権	9	15
非支配株主持分	361	230
純資産合計	147,786	152,702
負債純資産合計	196,058	191,808

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	122,970	120,968
売上原価	67,372	65,710
売上総利益	55,598	55,257
販売費及び一般管理費	48,390	47,905
営業利益	7,207	7,351
営業外収益		
受取利息	261	213
受取配当金	309	329
設備賃貸料	113	121
受取手数料	146	153
持分法による投資利益	183	277
雑収入	406	574
営業外収益合計	1,420	1,670
営業外費用		
支払利息	5	6
設備賃貸費用	41	58
雑損失	120	164
営業外費用合計	167	229
経常利益	8,460	8,793
特別利益		
固定資産売却益	31	5
投資有価証券売却益	—	66
受取保険金	—	184
その他	5	9
特別利益合計	36	265
特別損失		
固定資産売却損	93	—
固定資産廃棄損	84	113
減損損失	115	376
投資有価証券売却損	—	211
災害による損失	0	146
その他	5	6
特別損失合計	299	855
税金等調整前四半期純利益	8,197	8,203
法人税等	2,552	2,830
四半期純利益	5,644	5,373
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△14	△66
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,659	5,439

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	5,644	5,373
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,067	△1,150
繰延ヘッジ損益	4	1
為替換算調整勘定	△9	△16
退職給付に係る調整額	317	3,462
持分法適用会社に対する持分相当額	35	△29
その他の包括利益合計	3,415	2,268
四半期包括利益	9,060	7,641
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,074	7,708
非支配株主に係る四半期包括利益	△14	△66

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2017年4月1日 至 2017年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	85,577	28,305	9,086	122,970	—	122,970
セグメント間の内部売上高 又は振替高	546	7	1,659	2,213	△2,213	—
計	86,124	28,313	10,746	125,183	△2,213	122,970
セグメント利益又は損失(△)	11,868	243	192	12,304	△5,097	7,207

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,097百万円には、セグメント間取引消去47百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,145百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 上記のセグメント情報は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	133	—	5	—	139
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	499	—	64	—	564

- (注) 1. 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高499百万円（訪販グループ）、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高64百万円（その他）であります。
2. 上記の報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	85,044	26,527	9,395	120,968	—	120,968
セグメント間の内部売上高 又は振替高	572	8	1,789	2,370	△2,370	—
計	85,617	26,535	11,185	123,338	△2,370	120,968
セグメント利益又は損失(△)	11,369	260	338	11,969	△4,617	7,351

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,617百万円には、セグメント間取引消去53百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△4,671百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「フードグループ」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を376百万円計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	122	4	8	—	135
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	343	26	87	—	458

(注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高343百万円(訪販グループ)、26百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高87百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

第1四半期連結会計期間より、従来「クリーン・ケアグループ」としていた報告セグメントの名称を、「訪販グループ」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントについても、変更後の名称で表示しております。